

# 第14弾 真室川スタディツアー

忘れてはいけ  
ない

戦争の歴史を

語り継ぐ

戦後80年 真室川空襲に学ぶ旅

## まなびのしおり

2025.11.1.Sat

# 目 次

---

開講式・閉講式次第	・・・・・・・・・・	2
タイムテーブル	・・・・・・・・・・	3
スタディツアーについて	・・・・・・・・・・	4
真室川町の概要	・・・・・・・・・・	5
第二次世界大戦	・・・・・・・・・・	6～
戦時下における人々の暮らし	・・・・・・・・・・	11～
真室川の戦争の歴史	・・・・・・・・・・	14～
真室川空襲の記憶	・・・・・・・・・・	21～
終戦そして現代へ	・・・・・・・・・・	30～
MEMOページ	・・・・・・・・・・	34～
アンケート回答フォーム	・・・・・・・・・・	36
大人の社会科副読本・ツアーレポート	・・・・・・・・・・	37
バス乗車・公用車名簿	・・・・・・・・・・	38

## 第 14 回真室川スタディツアー

忘れてはいけない戦争の歴史を語り継ぐ～戦後 80 年 真室川空襲に学ぶ旅～

### 開 講 式 次 第

会 場：真室川町中央公民館研修室

時 間：7：45～

1. 開 会
2. 主催者あいさつ（教育長）
3. 講師紹介
4. オリエンテーション
  - (1) 事業の概要・タイムテーブル
  - (2) 事務連絡
5. 閉 会

### 閉 講 式 次 第

会 場：真室川公園レストハウス

時 間：11:00～

1. 開 会
2. ディスカッション形式で感想発表
3. 修了証贈呈（代表 1 名）
4. 主催者あいさつ（教育長）
5. 閉 会

## タイムテーブル(予定)

- 7 : 30 ~ 7 : 40 受付
- 7 : 45 ~ 7 : 55 **開講式【中央公民館】**
- 8 : 00 ~ 9 : 00 **講話（映像・写真・所蔵資料）【中央公民館】**
- 9 : 10 ~ 9 : 30 (移動)
- 9 : 30 ~ 10 : 10 **真室川飛行場跡見学【野々村地区】**
- 10 : 15 ~ 10 : 25 (移動)
- 10 : 25 ~ 10 : 40 **慰霊塔・忠魂碑見学【真室川公園】**
- 10 : 40 ~ 11 : 00 **コーヒータイム【公園内レストハウス】**
- 11 : 00 ~ 11 : 20 **閉講式【公園内レストハウス】**
- 11 : 25 ~ 11 : 30 **移動・中央公民館到着・解散**



**みんなで育む 学びのまち 真室川**

～ふるさとを愛し 高い志をもって 未来をひらく 人づくり～



## 【スタディツアーについて】

真室川町のスタディツアーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

真室川町にはたくさんの宝物がありますが、地域の方々からは「真室川町には何もない」との声がしばしば聞かれます。子ども達は学校での「ふるさと学習」により、地域の宝物を多く学んでいます。しかし、その親・祖父母世代である大人は、真室川の本当の宝物や魅力を知らないままに生活している方が、案外いらっしゃるのではないのでしょうか。そのようなことから、今回、改めて地域の宝を再発見する社会科見学を企画しました。子ども達と一緒に大人も町の良さを見つめなおすことで、「真室川町にはいいところがたくさんある」と自信を持って言える方が増えることを期待しています。

# 【真室川町の概要】

(令和7年9月末現在)

○人口: **6,329人**      ○世帯数: **2,499世帯**

## 町のシンボル

◎町の木 「梅の木」



◎町の花 「梅」



◎町の鳥 「ウグイス」



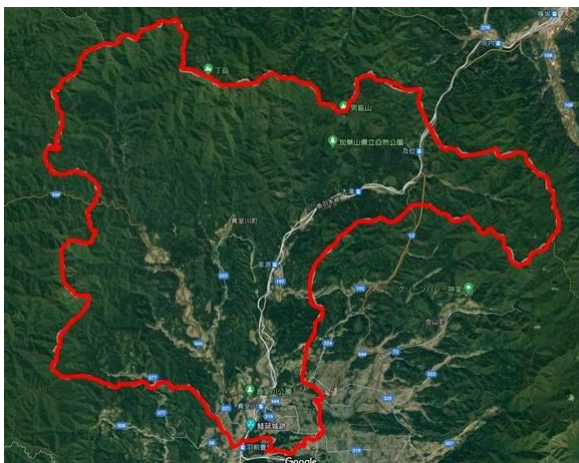
◎町の魚 「ハナカジカ」



◎町の音頭 「真室川音頭」



◎町の昆虫 「ハッチョウトンボ」



地目	面積(km <sup>2</sup> )	割合(%)
山林	295.05	78.8
田	20.61	5.5
畑	3.17	0.8
宅地	2.44	0.7
原野	9.22	2.5
その他	43.73	11.7
合計	374.22	100

(H31.1.1時点)

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に接している。

町の約79%が山林の中山間地域であるため、古くから林業・農業が盛んである。

また、各地区には伝統文化が数多く継承されており、番楽・囃子・わらべ唄のほか、伝承野菜等も引き継がれている。

# 第二次世界大戦



アメリカ軍の艦上戦闘機

「グラマンF6F」

# 開戦から終戦まで(1931-1945)

## 真室川の戦争の歴史

満州事変(1931年9月)

東北を襲った大凶作に対応するため国が提唱した「経済更生計画」事業の一環として

2・26事件(1936年2月)

**真室川飛行場を建設。(1936年)**

日中戦争(盧溝橋事件)(1937年7月)

**第二次世界大戦 開戦(1939年9月)**

日中戦争の拡大に伴い、

日独伊三国同盟 締結(1940年9月)

**帝国陸軍の飛行場に転用(1940年)**

熊谷航空北部分隊の練習場となった。

**太平洋戦争 開戦(1941年12月)**

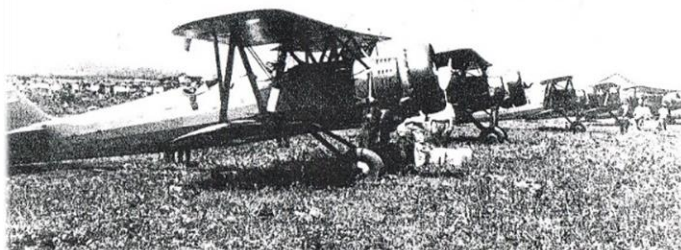


ミッドウェー海戦 敗北(1942年6月)

熊谷陸軍飛行学校の分教場として飛行隊員の養成が行われるようになる。  
飛行場内に兵舎が建設される。(1943年)

学徒出陣(1943年10月)

特攻作戦 開始(1944年10月)



「ヤルタ会談」(1945年2月)

米軍による爆撃が地方にも及ぶ(1945年)

東京大空襲(1945年3月)

アメリカ軍 沖縄上陸(1945年4月)



「ポツダム宣言」発表(1945年7月)

**真室川空襲(1945年8月10日)**

広島に原爆投下(1945年8月6日)

岩手県沖に布陣していたアメリカ軍による爆撃と機銃掃射が行われた。午前と午後の2度にわたる攻撃で飛行場は壊滅的打撃を受け、10人家族のうち6人の命が奪われた。

長崎に原爆投下(1945年8月9日)

玉音放送 終戦(1945年8月15日)

入植者による荒れ果てた飛行場跡地の開拓が開始される(1946年4月29日～)

## 第二次世界大戦（1939年9月1日～1945年9月2日）

第二次世界大戦は1939年8月にドイツのヒトラーがソ連のスターリンとの間で「独ソ不可侵条約」を締結し、同年9月にドイツ軍がポーランドに侵攻したことがきっかけで戦いがはじまった。日本は1940年9月にドイツ・イタリアと「日独伊三国同盟」を締結。三国を中心とした「枢軸国」と、イギリス・フランス・中国に加えて、途中から参戦したアメリカなどの「連合国」に分かれ、ヨーロッパ・アジア・太平洋地域を主とした戦地で戦闘が行われた。1945年9月2日に日本が降伏文書に調印したことで終結した。全世界で約5600万人(うち日本国内310万人)もの死者を出す史上最悪の大戦であった。

## 太平洋戦争(1941年12月8日～1945年9月2日)

太平洋戦争は第二次世界大戦中の1941年12月8日、日本はイギリスの植民地であったマレー半島(マレー作戦)、アメリカ海軍基地があったハワイの真珠湾を奇襲攻撃したことで戦いがはじまった。1937年7月に開戦した「日中戦争」での行き詰まりを打開し、石油・ゴム・食糧などの資源を獲得するため、日本軍は東南アジアに進出した。侵攻を強める日本に対し、アメリカは石油などの輸出を禁止する経済制裁を発動。外交交渉を続けたが、アメリカの対応がさらに厳しくなり、ついに日本は開戦に踏み切った。開戦当初は勝利を重ね、シンガポール・フィリピンなど、占領地を拡大していった。しかし、1942年6月の「ミッドウェー海戦」での敗北から徐々に戦況は悪化。「ガダルカナル撤退」「東京大空襲」など、アメリカの反撃が強まり「ポツダム宣言」を発表。8月に広島・長崎に原爆が投下され、無条件降伏が決定。1945年8月15日に玉音放送で終戦が伝えられる。同年9月2日に正式に終戦となった。

## 特別攻撃＝“特攻”(1944年10月～)

特別攻撃＝“特攻”は、太平洋戦争中に、アメリカの猛攻により敗退を重ねた日本が反撃の手段として始めた作戦。航空機や魚雷に人員を乗せたまま敵艦に体当たりする。特攻隊員の年齢は17歳から32歳が中心で、特に18歳から20歳の若者が多く、陸海軍で約6000人も隊員が亡くなった。航空機による特攻が開始された当初は、アメリカ軍に大きな損害を与えたが、レーダーを用いた監視や対空砲火が強化されると、特攻機の多くが撃墜されていった。

日本軍の最初の特攻隊は「神風特別攻撃隊」で、1944年10月にフィリピン・レイテ島に上陸したアメリカ軍を撃退する作戦の一環として、250kgの爆弾を積んだ海軍の戦闘機「零式艦上戦闘機＝零戦(ぜろせん)」がアメリカ軍の艦隊へ体当たり攻撃をした。予期せぬ攻撃であったこともあり、護衛空母1隻を沈めるなど、大きな戦果を上げた。(翌月には陸軍でも特攻が開始された)

しかし、アメリカ軍の特攻対策が強化されると、レーダーによる監視とすさまじい対空砲火により、特攻機は撃墜されていった。それでも特攻は継続され、日本軍にとって主要な戦法となり、ついにはスピードの出ない練習機まで投入し特攻が行われた。

真室川飛行場においても九三式中間練習機(通称：赤とんぼ)で約1か月あまりの練習に取り組んだ隊員が、特攻隊員として各地へ次々と飛び立っていった。

特攻隊員には当町出身者もいた。1944年12月13日、零戦に搭乗し、シンガポール島沖で18歳の海軍隊員が亡くなっている。

特攻は、犠牲となった隊員だけでなく、家族や友人など多くの人々の心に深く傷をつけ、今もなおその恐ろしさが語り継がれている。

「NHK アーカイブス」「真室川町史(昭和44年版)」参照

## 原爆投下(1945年8月6日/8月9日)

1945年8月6日に広島、9日には長崎に原子爆弾(原爆)が投下された。広島に投下されたのは「リトルボーイ」と呼ばれ、年末までの死者数はおよそ14万人、長崎に投下されたのは「ファットマン」と呼ばれ年末までの死者数はおよそ7万人となった。

1939年10月にドイツ出身の物理学者「アインシュタイン」は、ドイツで原爆の開発が進められることに危険を感じ、アメリカのルーズベルト大統領に原爆の開発を急ぐよう進言した。1942年8月に「マンハッタン計画」と名付けて開発が開始され、1945年7月16日に実験に成功し完成。そのわずか3週間後に広島と長崎に投下された。原爆は当初、日本への使用を想定していなかったが、原爆が完成する前の1945年5月にドイツが降伏したため、日本への使用が決定された。

8月6日午前8時15分、広島に投下された原爆は上空約580メートルで炸裂。閃光に包まれ強烈な熱線と爆風は市民の命を奪い、建造物を破壊した。8月9日午前11時12分に長崎に投下された原爆は広島のものより強力であった。両都市には大量の放射線が降り注ぎ、生き残った者も直後に急性障害(吐き気や脱毛など)、数か月から数年たったのちも後障害(がんや白血病)によって今もなお苦しめられている人々がいる。

世界で初めて原爆が投下された国として、人類の歴史の中でも類をみない恐ろしい原爆の真実を風化させないために、被爆者による証言のデジタル化などの取り組みが行われている。



「NHK アーカイブス」「広島平和記念館 HP」「世界史の窓」参照

# 戦時下における

# 人々の暮らし



軍人の救護を主な目的として

結成された愛国婦人会

## 戦争中の国民の暮らし

大戦中、政府は国民に対し「国民精神総動員運動」を提唱し、戦争は国民の生活や教育、文化などのすべてをにかけて行われる総力戦とされていた。日中戦争の開戦後、思想・言論などへの弾圧が強まり、思想統制が開戦以前よりもますます厳しくなった。政府や軍を批判した者は、特別高等警察に逮捕された。国民は隣組(国民統制のために作られた地域組織)に加えられ、配給物の受け取りや分配、消火訓練などの防火・防空訓練、国債や金属類の回収などの活動を共同で行っていた。そのほか、出征する兵士の見送りや勤労奉仕なども義務付けられた。「万民翼賛(国民が一体となって国を助けること)」を支えるための組織とされた一方、隠し事ができないよう隣人同士を監視する側面もあった。

戦争による物資不足により、政府は鉄・石油・羊毛・木材などの物資を軍備に優先して使用するようになった。特に鉄などの金属類は武器を製造するための必需品とされ、建物の鉄柵や手すり、寺の鐘に加え、鍋や釜などの日用品までもが回収された。米・味噌・小麦粉・肉・魚の食糧や木炭・マッチ・衣料などは、一定の割合で配る配給制や、一定の点数内で購入する切符制となり、国民の生活を苦しめていった。

「学研教育情報資料センター資料」「昭和館特別企画展資料」参照

## 戦争中の教育

1937年に日中戦争が開戦すると、日本中が急速に戦時色を帯びていった。それに伴い、修学旅行などの大きな行事が取りやめとなり、軍隊式の訓練が重んじられるようになるなど、学校生活も大きく変化していく。

1941 年からは「国民学校令」が発令され、それまでの尋常小学校(じんじょうしょうがっこう)や高等小学校は「国民学校」へと名称が変更され、義務教育期間も 6 年制から 8 年制へと延長された。国民学校では「基礎的錬成」が教育の方針とされ、国家のために自己を犠牲にする精神と身体を鍛え、天皇のために命を捧げることが求められた。

これに伴い、教育内容も変化していく。教科の再編が行われ、体育の授業が増え、男子は剣術、女子には薙刀や看護の訓練が取り入れられた。また、「勤労奉仕」により、学校以外で農作業や土木工事などが行われた。

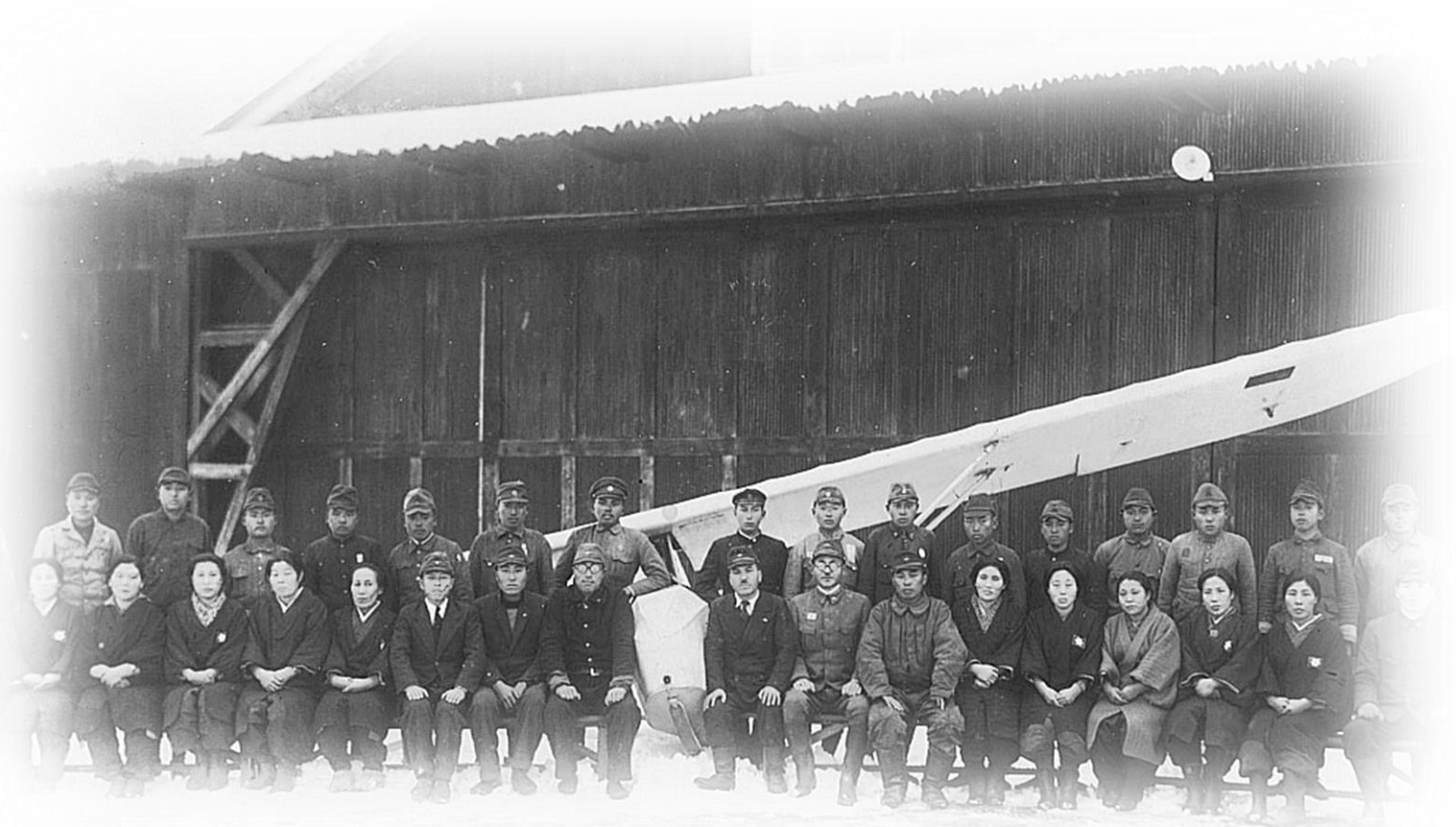
各学校には「御真影(ごしんえい)」と呼ばれる天皇陛下の写真や「教育勅語(きょういくちよくご：1890 年に明治天皇が発布した近代日本の教育の基本方針と国民道德の基準を示したもの)」が収められた「奉安殿(ほうあんてん)」という建物が設けられ、前を通過する際は敬礼が義務付けられるなどの儀式が重要視された。

1944 年ごろには戦況が悪化し、国民学校高等科(現在の中学生ぐらいの年代)の生徒たちが「学徒動員(がくとどういん)」により、軍需工場などに動員され、戦場で使われる兵器や軍服などの生産を行った。

敗退を繰り返した日本軍の兵力不足の影響を受け、大学や高等専門学校に在学していた学生は徴兵猶予が停止され、学業を中断し、兵役に就いた。(当時は 20 歳以上の男性は陸海軍の兵士となる義務があった)

兵役に就いた学生の一部には「特攻隊員」として戦場に飛び立ち、犠牲になった者もいた。

# 真室川の 戦争の歴史



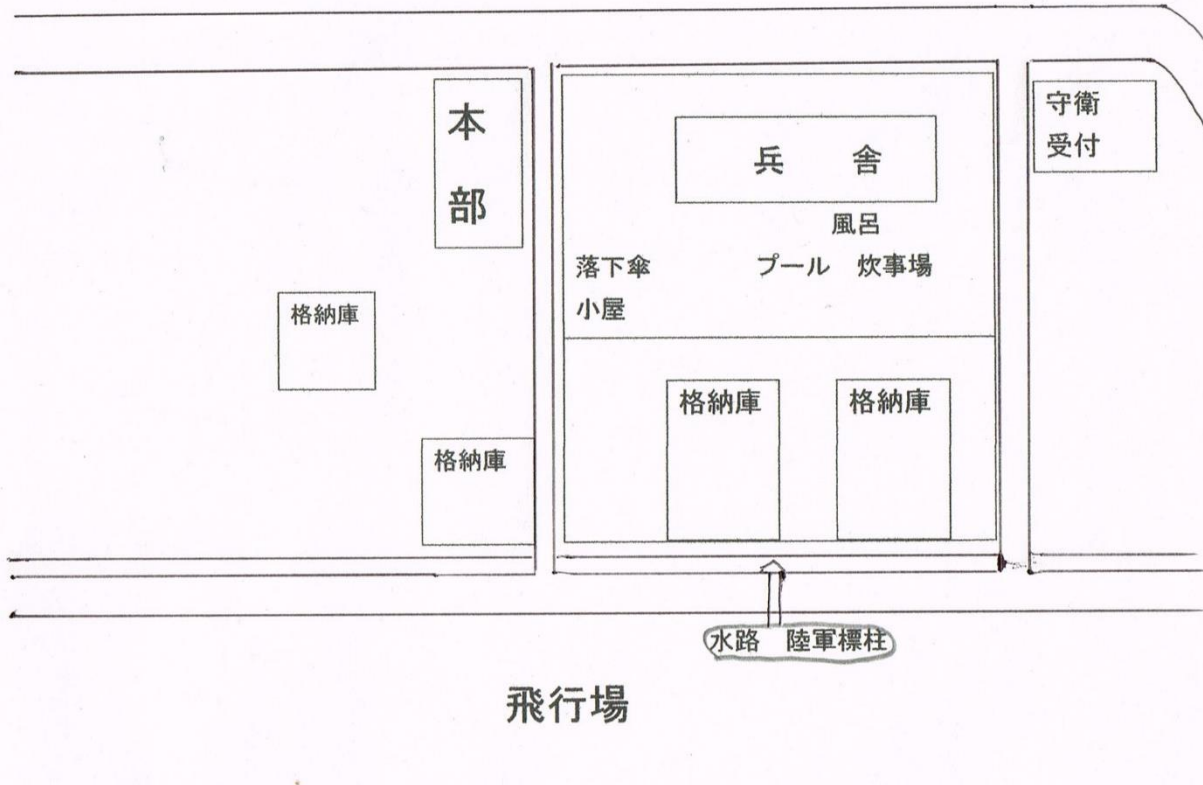
慰問を受ける飛行兵

# 真室川飛行場(野々村・共栄・神ヶ沢)



真室川飛行場は、1936年に当時の真室川村を含む東北地方を襲った大凶作(1930年～1934年)に対応するために国が提唱した「経済更生計画」事業の一環として建設された。建設当時は「村営飛行場」であり、当時の村長は経済の更生と雇用の場として飛行場が必要と判断し、建設に踏み切ったと考えられている。

1937年開戦の日中戦争の拡大に伴い、1940年からは大日本帝国陸軍の軍用飛行場へと転用され、熊谷航空隊北部分隊の練習場として利用されるようになった。そのため、耕地整理が必要となり、1940年に秋田掘金組の請負により大規模な人海戦術による建設が始められ、町内はおろか郡内の婦女子の勤労奉仕、北海道や東北各地からの出稼ぎ者等によって建設が進められ、3年で完成した。1941年には熊谷航空分隊の駐屯が行われ、それぞれ民泊し、飛行場建設の指導にあたった。



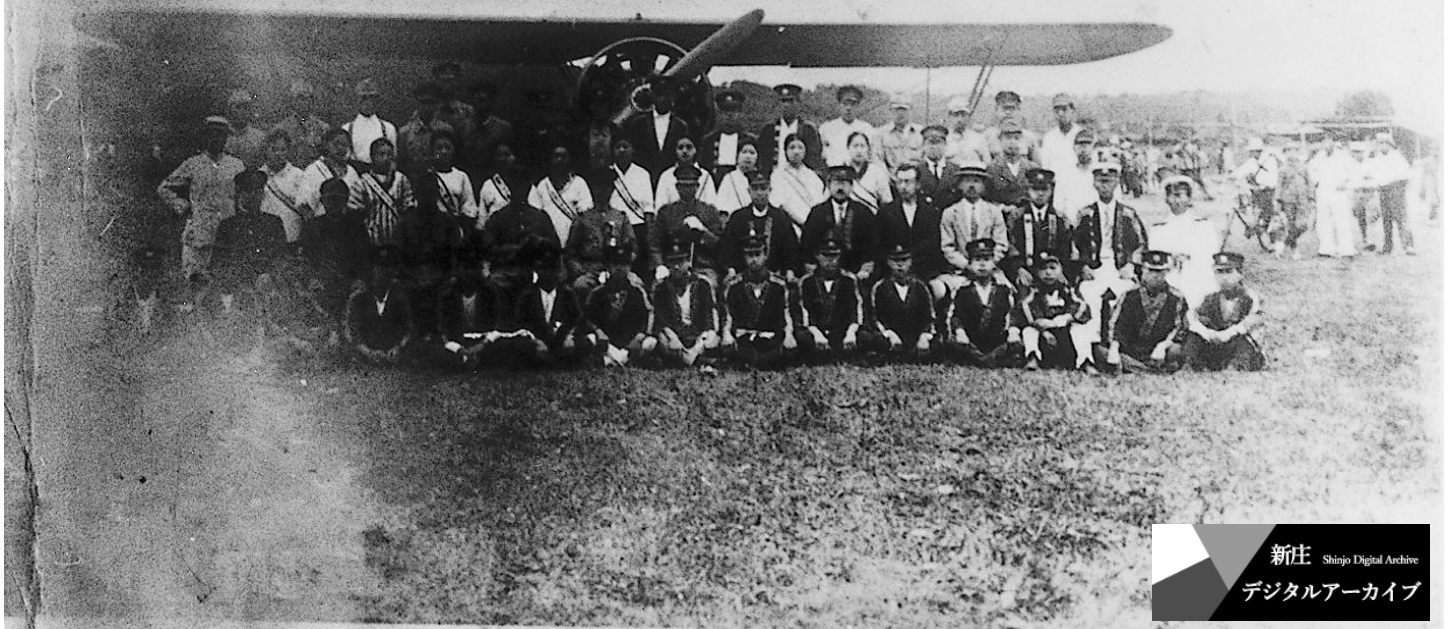
この部隊の駐屯に続き軍航空隊員が続々と駐屯し、常駐隊員は 100 名を超え、当時は兵隊のいる村として賑わいを見せた。



村民より慰問をうける飛行兵

1943 年には「熊谷陸軍飛行学校(埼玉県大里郡※現在の熊谷市西部)」の分教場として飛行隊員の養成が行われるようになり、飛行場内には兵舎が建設された。隊員たちは新庄や真室川の工場で製造された木製の飛行機「九三式中間練習機(通称：赤とんぼ)」で約 1 か月間訓練を積み、その多くは特攻隊員として戦地へ飛び立っていった。

地域住民や非軍需企業などからの献金によって調達された航空機  
陸軍では「愛国号」、海軍では「報国号」と呼ばれた



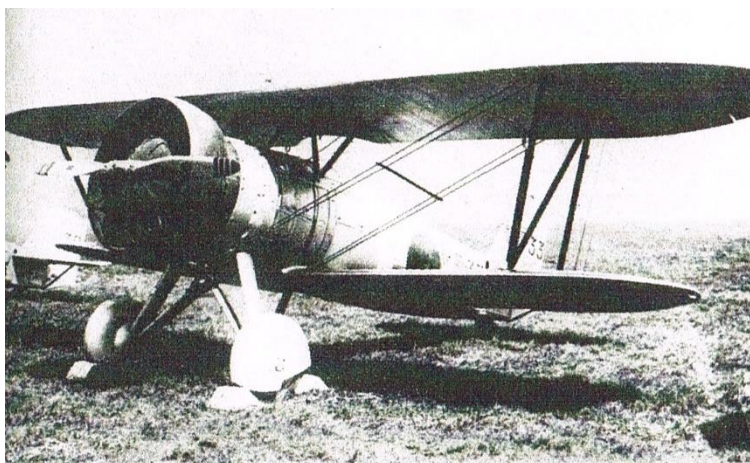
新庄 Shingo Digital Archive  
デジタルアーカイブ



当時の格納庫



訓練を受ける兵隊



九三式中間練習機「赤とんぼ」  
写真とイメージ図

# 真室川空襲(1945年8月10日)

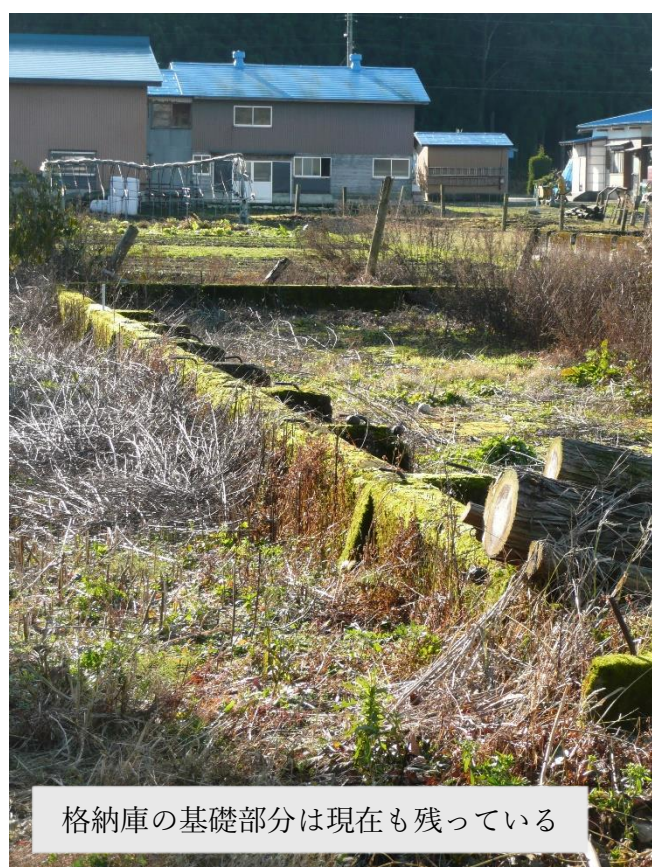
1942年4月、日本本土への初の空襲が行われ、アメリカで長距離大型爆撃機「B29」が開発されてからは、都市部や航空機工場などの工場地帯への戦略的爆撃が行われるようになった。1945年になると爆撃は地方まで及び、焼夷弾での住宅の焼き払いなど事実上の無差別の爆撃が行われた。

陸軍の飛行場であった当町も攻撃の対象とされ、激しい銃爆撃にさらされた。敗戦間際の1945年8月10日、岩手県釜石沖に布陣していたアメリカ軍の「空母サンジャシント」「空母ベニント



飛行場を襲ったグラマン F6F(通称：ヘルキャット)

ン」「空母レキシントン」などから放たれた戦闘機が真室川・鶴岡・尾花沢の飛行場と酒田港をターゲットに、爆撃を行った。艦上戦闘機であったことから、B29による東京



格納庫の基礎部分は現在も残っている

大空襲(1945年3月10日)のような無差別広範囲な爆撃ではなかったものの、これを迎え撃つ戦闘機や高射砲がなかったために、戦闘機は傍若無人に飛び回り、搭乗員の顔がはっきり見えるほどの低空飛行し、徹底的に攻撃された。攻撃は午前と午後の2度にわたって行われた。特に執拗に狙われたのは、飛行場はもちろん、周囲に隠してあった練習機とその燃料、軍需物資の保管庫や工場、さらに国鉄の遮断を目的と

した、鉄橋や駅舎等であった。これにより飛行場の格納庫は壊滅的な打撃を受けた。この空襲で神ヶ沢集落の民家では、10人家族のうち6人の命が失われた。



飛行場内の爆弾の跡

空襲の際に被弾した大きな穴や無残な痕跡が残った真室川飛行場は荒れた野原になっていたが、1946年4月29日より共栄地区に入植した人々により開拓されていく。荒れ果てた野原は開拓者の血のにじむような努力により、畑作や稲作が行われ、現在に至る。

OPNAV-16-V-#537 Form ACA-1 Sheet 1 of 5

### AIRCRAFT ACTION REPORT

RESTRICTED (Reclassify when filled out!)

**I. GENERAL**

**SECRET**

(a) Unit Reporting VF-49 (b) Based on or at USS SAN JACINTO (c) Report No. ACA-1- 60

(d) Take off: Date 10 August 1945 Time (LZT) 0707(I) (Zone); Lat 38°15'N Long 143°50'E

(e) Mission Strike - MAMUROGAWA airfield (f) Time of Return 1136(I) (Zone)

**II. OWN AIRCRAFT OFFICIALLY COVERED BY THIS REPORT.**

TYPE (a)	SQUADRON (b)	TAKING OFF (c)	NUMBER OF A/C (d)	ATTACKING TARGET (e)	BOMBS AND TORPEDOES CARRIED (PER PLANE) (f)
F6F-5	VF-49		10		6 planes carried 6-5" rockets & 1 500# G.P. 3 planes carried 6-5" rockets

**III. ENEMY AIRCRAFT DESTROYED OR DAMAGED BY OWN AIRCRAFT LISTED IN II.**

(a) TYPE	(b) NO. OBSERVED	(c) NO. ENGAGING OWN A/C	(d) TIME ENCOUNTERED	(e) LOCATION OF ENCOUNTER	(f) BOMBS, TORPEDOES, GUNS OBSERVED
NONE				(ZONE)	

(h) Apparent Enemy Mission(s)    
 Did Any Part of Encounter(s) Occur in Clouds?  If so, Describe Clouds \_\_\_\_\_ (BASE IN FEET)

(i) Time of Day and Brilliance of Sun or Moon  (NIGHT, BRIGHT MOON, DAY, OVERCAST, ETC.)

**V. ENEMY AIRCRAFT DESTROYED OR DAMAGED IN AIR (By Own Aircraft Listed in II)**

(a) TYPE ENEMY A/C	(b) DESTROYED OR DAMAGED BY:
TYPE A/C	SQUADRON PILOT OR GUNNER GUNS USED
NONE	

Misson(任務)  
「Strike-MAMUROGSWA airfield」  
“真室川飛行場へ攻撃”

1945年8月10日の午前に真室川に攻撃を行った空母サンジャシントのVF-9という部隊が作成した報告書。  
国立国会図書館デジタルコレクションより

OPNAV-16-V-#537 Form ACA-1 Sheet 3 of 5

### AIRCRAFT ACTION REPORT

RESTRICTED (Reclassify when filled out!)

REPORT No. ACA-1- 60

(OMIT THIS SHEET IF NO ATTACK WAS MADE)

**XI. ATTACK ON ENEMY SHIPS OR GROUND OBJECTIVES (By Own Aircraft Listed in II Only).**

(a) Target(s) and Location(s) MAMUROGAWA airfield (b) Time Over Target(s) 0845(I) (Zone)

(c) Clouds Over Target 1500 feet Nimbo cumulus 10/10 (BASE IN FEET, TYPE AND TENTHS OF COVER)

(d) Visibility of Target Partially obscured by showers (e) Visibility 5 (MILES)

(f) Bombing Tactics: Type Glide, minimum altitude Bomb Sight Use Wk. 8 Illuminated gunsight (LEVEL, GLIDE OR DIVE) (TYPE)

Bombs Dropped per Run 1 (NUMBER) Spacing x (FEET) Altitude of Bomb Release 800 (FEET)

(g) Number of Enemy Aircraft Hit on Ground: Destroyed 15 Probably Destroyed 0 Damaged 16

(a) AIMING POINT	(b) DIMENSIONS OR TORNAGE	(c) NO. A/C ATTACKING (d) SQUADRON	(e) BOMBS AND AMMUNITION EXPENDED (FIGHT, AIMING POINT)	(f) NO. HITS ON Aiming Point	(g) DAMAGE (None, slight, serious, destroyed or sunk)
Grove of trees NE of field.	300 x 300	1 VF-49	1 - 500# G.P.	1	Two planes (SE) burned.
Wooded area west of field.		2 VF-49	2 - 500# G.P.	2	Two Zeeks burned.
Wooded section, SE corner of field.		1 VF-49	1 - 500# G.P.	1	4 SE destroyed.
Amidships on small engines-aft freighter (JMSST-Sugar Dog) 38°31'; 141°29'.		1 VF-49	1 - 500# G.P.	1	Blown up and destroyed.
Building in Okachi Town.		1 VF-49	1 - 500# G.P.	1	Unobserved.

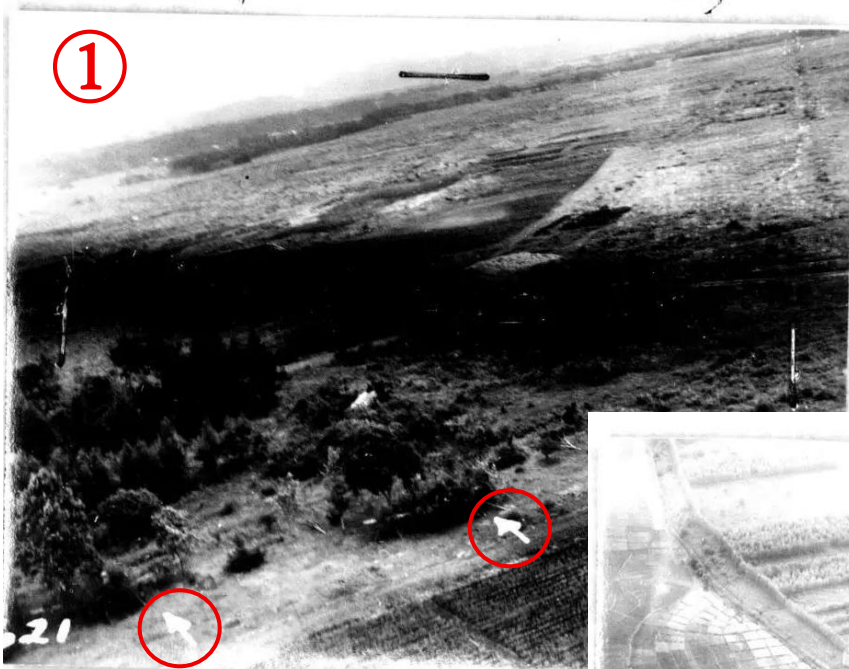
(o) RESULTS: (For all hits claimed on ship targets and for land targets of special interest, drawings of hits. For all targets give location and effect of hits, and identify by numbers above.)

Three photographs are hereto attached. Photograph Number One included on this page shows a plane fired in small grove near Mamurogawa airfield. Photographs Number Two and Three are included in attached sheet. Photograph number Two shows two heavily camouflaged single-engined planes west Northwest of the field. Photograph Number Three shows pine grove northeast of the field in which are seen many hidden planes (indicated by arrows).

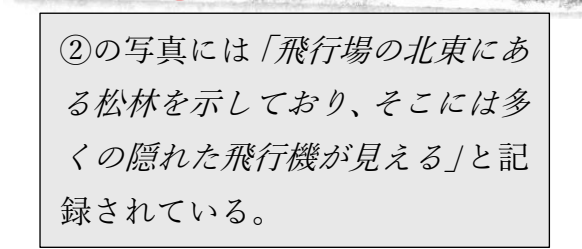
Were Photographs Taken?  Yes Photographs of Damage, Yes

3-16

通信員によって撮影された写真が添付されている。報告書には「真室川飛行場近くの小さな林で発砲された飛行機」と記載されている。



同報告書に添付されていた 2 枚の写真。白い矢印は隠されていた飛行機を指す。①の写真には「飛行場の西北西に位置する、嚴重にカモフラージュされた 2 機の単発機を示す」と記載されている。



②の写真には「飛行場の北東にある松林を示しており、そこには多くの隠れた飛行機が見える」と記録されている。



③の写真は空母サンジャシントの VT-49 という部隊が同日午後の攻撃の際に撮影した写真。

上部で煙を上げて燃える飛行機のほか、○で囲まれた箇所に隠された飛行機の存在を確認したことが記載されている。

高度 1500mの雲の間から時折見えた陸地の様子から、真室川へ到達。斥候機 2 機が飛行場と飛行機の存在を確認し機銃掃射を繰り返す。飛行機は飛行場の端に秘匿されていた。

残りの部隊も雲の切れ目から突撃して目標を攻撃。高度 3000mと高度 900mから滑空により爆撃を実施。敵機体は予想された場所に無く、木の葉で覆われたり、迷彩塗装されたりしていた。

爆撃のほか機銃掃射全体では 12 機を破壊し、12 機以上に損害を与えた。隠れた機体を発見しては攻撃を繰り返す、1 時間が過ぎた後、固定銃の弾薬が尽きたため空母へ向かった。

この目立たない飛行場は日本軍機の宝庫ともいえるものであり、主要飛行場から運ばれ、侵攻に供えて備蓄されているものと結論づけることができる。

空母サンジャシント VF-49 部隊 8 月 10 日午前の攻撃の報告書より一部を翻訳・抜粋

※東北芸術工科大「レキタン」優秀賞獲得 新庄北高定時制「真室川空襲の真実に迫る！」を参考に調査

# 真室川空襲の 記憶



真室川空襲の想像画(近岡善次郎 画)

# 真室川空襲を知る方々の語り



真室川空襲の想像画(近岡善次郎 画)

## ○松沢きみえ 氏

私の家は真室川飛行場のすぐそばにありました。よく練習機が飛んでいましたので、飛行機には慣れていました。昭和20年8月10日の午前中、「あらあら今日はずいぶん低くとぶな」と話していたら、いきなりバリバリという音がしました。練習機ではなく敵機でした。機銃が火を噴き、飛行機の操縦士が顔を出して下を覗いているのが見えました。私の家族は10人でした。みんな慌てて外に逃げました。10人もぞろぞろ逃げたので、かえって目立ったのでしょうか。追いかけるようにして私たちをめがけて機銃を撃ってきました。

飛行機がいなくなってから急いで引き返したところ、途中で父と三つになる一番下の妹を背負った母が倒れていました。母を起こそうとしたところ、背中の妹もろともすでに死んでいました。一発の機銃弾が妹の小さな背中と母の胸を貫通したのです。父は

肩をやられていました。何か言うたびに血がピュウピュウ傷口から吹き上げました。私は何回も父の唇を濡らしてやりました。父は気丈な人で「オレはまだ死ねない…本家の人を呼んで来い。本家にお前たちのことを頼まないうちは死ねない…」と喘ぎ喘ぎ言いました。でもなす術もなく父は息を引き取りました。午前中だけで3人も死にました。両親が死んだ時の事を思うと口惜しくて今でも涙が出てきます。

午後からも飛行機がやってきました。今度は爆弾も落としました。家に当たるとすぐに火が付く爆弾でした。逃げる間もなく、私は二番目と三番目の妹を抱くようにして頭から布団をかぶりました。暑い盛りなので二番目の妹が「姉ちゃん、布団剥いで…」と何回も哀願しました。一度剥いでみたら玉の汗をかいていました。「飛行機すぐになくなるから」となだめてまた布団をかぶりました。そのうち声がしなくなりました。そして、私の肩のあたりにぬるぬるしたものが感じられ、生臭いにおいがしてきました。驚いて布団を剥いたら、二番目の妹が頭をやられ、脳みそが全部出ていたんです。揺り動かしてみたんですがびくともしません。もう死んでいたんです。そしたら布団に火がつき背中が熱くなってきました。私は妹たちを顧みる間もなく家の前の堰に飛び込んで火を消し、布団をかぶったまま近くの林の中に走って逃げました。助かったのは自分だけだと思い「死んだほうが良かった…」と泣いていたら、どこからか一番上の妹が走ってきて「姉ちゃんも生きてたの…」と抱きついてきました。2人で涙が枯れるほど泣きました。

夕方になってようやく飛行機がいなくなりました。飛行場の兵隊たちがやってきました。2人の弟を連れていました。バラバラになりもうだめだとあきらめてたんですが、兵隊たちがどっかに避難させてくれていたので無事だったんです。でも、おじいちゃん

と三番目の妹が見当たりません。兵隊たちが捜してくれました。おじいちゃんは爆弾で焼けた小屋の中から死んで見つかりました。真っ黒に焼けていました。おじいちゃんはいつか稲刈りの時に目を突いて、それ以来、目が不自由でした。這いずりながら小屋まで逃げたんでしょう。三番目の妹も焼けた家の中から死んで見つかりました。10歳でした。三番目の妹は午前中、機銃で目をやられ、片方の目が飛び出してぶら下がったまま一緒に布団に隠れましたが、すっかり弱っていました。私が火のついた布団をかぶったまま逃げる時、「姉ちゃんわたしも連れてって…」と力なく叫んでいたのを記憶しています。妹を見殺しにしたこの身が引き裂かれる思いです。どうする事も出来なかった自分を今でも恨めしく思っています。

私の家族は10人のうち6人が一日がかりで殺されました。生き残ったのは20歳の私を頭に妹弟4人だけでした。あまりにも残酷です。涙も枯れ、ただ茫然とするだけの私たちはその日の夜から親戚に分散して引き取られました。その年の秋に、私の家の田んぼに仮小屋を建て再出発しました。農繁期には親戚や近所の人たちに手伝ってもらい、子ども4人寄り添うようにしてようやくこれまで生きてきました。生き残った4人は現在それぞれ所帯を構え元気にやっています。でも、地獄のようなあの日の出来事は生涯忘れることはできないでしょう。



①真室川空襲の際にアメリカ軍から投下された爆弾の破片と機銃の弾丸  
②真室川空襲の際に機銃掃射の弾丸が命中し、貫通して穴が開いた鉄兜

## ○星川すみこ 氏

あれは昭和 19 年の夏、雨の夜だった。真室川町野々村地区にあった宇都宮飛行機学校分校の見習士官生が、特攻隊になるため軍用特別列車で出発していった。ざくざくざくという音を立てながら駅までの行進が続いた。こんなに若いのに、と思うといたたまれなくなった。

私は昭和 18 年春から昭和 19 年秋まで、分校の飛行場で事務をしていた。練習生に家族から来る手紙や、出す手紙の検閲の仕事。例えば「何月何日にどこどこへ行く」とか「金を送れ」などの文面があった場合は手紙を差し止めた。中にはこっそり「これ頼む」なんて持ってくる人もいて、そういうときには黙って町の郵便局に投函したこともあった。見送りながら、いろいろな思い出がよみがえった。

練習生は学徒動員で来た大学一、二年生がほとんど。私は女子職員の中で一番若かったから、かわいがってもらえた。

練習生は、赤とんぼと呼ばれる二枚羽根の練習機に乗って近くを旋回したもんだった。練習後、顔を合わせると、「君の家で今日、布団干していたね、赤い布団だった」なんて声をかけられ、ほおを染めたりした。

練習は厳しかったようだ。練習生がスリッパで顔を殴られることもしばしばあった。伍長や曹長クラスの年配の教師たちが大した理由もないのに殴る。そうすると、「今に見てろ」なんて悔しがる練習生もいた。だって卒業すると、少尉になる人たちだから。

練習中に、練習機が墜落して死ぬ人もいた。近くの正源寺という寺で通夜、宿舎では仏教関係の学校の学生たちが念仏をとなえたものだった。いくら戦争とは言っても、母親など家族は棺にしがみついて泣いた。私も、ついついもらい泣きしてしまった。

昭和 20 年 8 月 10 日。私はすでに飛行場の事務を辞め、国鉄真室川駅に勤めていた。ホームで朝の体操をしている時だった。空を見あげると、飛行機が見えた。しかし、いつもと様子が違った。翼が一枚しかない。飛行場の本部に問い合わせ、敵機とわかった。そのうちだれかが半鐘を打ち鳴らし出した。防空壕に入ったが、敵機は急降下して来て、ダッダッダッと機銃掃射。本当に生きた心地がしなかった。

## ○黒坂貞雄 氏

私は昭和 20 年 3 月に真室川尋常小学校高等科を卒業して、自宅で農業に従事していました。そのころから飛行場の兵隊が私宅で 7、8 人間借りをしていました。その中の静岡県から来ていた青柳忠治という兵隊が、私を飛行場に連れて行き、赤とんぼによく乗せた。私宅が飛行場の隣であったので、私の少年時代の思い出は真室川飛行場と共に歩んだといっても過言ではありません。

8 月 10 日 8 時半頃、グラマンが川ノ内方面から上昇して飛行場に向かってきました。野々村(部落)の杉林や松林に隠しておいた赤とんぼ四、五十機。その一角に爆撃を受け、四機破壊しました。私はこのことでようやく空襲だとわかりました。飛行場近隣を約 2 時間程飛んでいたように思います。この最中に当村の一郎家の親子のベゴが逃げて仔牛が撃ち殺されました。そして空襲が終わった頃、飛行場の兵隊が自宅に来て、敵機がまたやって来ると教えました。

12 時半頃、再びグラマンが十四、五機飛来し、航空本部に爆弾を下ろし破壊しました。しかし不思議なことにその近隣に建てられている兵舎や格納庫は破壊されずに済みました。米軍は格納庫に飛行機はないと確信していたのか、それとも練習機なので影

響ないと考えてのことか。

私たちの近隣には防空壕がなく、約 30 人で内町薬師様(神社)に逃げました。空襲が治まって家に帰ると、爆風で土間の板敷きが剥がれ飛んでいたり、干していたジャガイモが到るところに散在していました。

午後 3 時半頃、3 回目の空襲があり、約五十機程、飛行場近隣を飛び回った。神ヶ沢の松沢さん宅や真室川駅東側の材木場などが被害を受けたようだ。

私の家族は飛行場の脇に住んでいることに危険を感じて、その夜は鮭延城跡の東側、七滝辺りの「さ坂」に一晩隠れました。そして次の日からは親戚の新庄柏木山に行き、三日程泊めてもらった。本当に戦争はしてもらいたくない。学校に行っても勤労奉仕ばかりで、旅行にも行けなかった。

## ○沓澤靖男 氏

私は、真室川爆撃のあった昭和 20 年に農兵隊(食糧増産隊)最上中隊第三小隊に所属しており、主として山形県内の農場、または建設現場で働いておりました。

爆撃の当日(8 月 10 日)は、前日から第二小隊宿舎の豊田小学校に伝令として来て泊まっていた。10 日に自宅に帰り、11 日に第三小隊宿舎のある古口に帰る予定であった。

10 日の朝。他の隊員達が作業に出発して間もなく、真室川方面から大きな爆音をたなびかせ飛行機が飛来してきた。私が二階にいて窓の内から見たのはアメリカの軍用機、グラマン F6F であった。当時、新聞紙上で何回も見ているので間違いないと思った。

すぐ目の前を低く通り過ぎて行くので搭乗員の兵もほぼ解るほどでした。2 人位乗っ

ていたようでした。どの辺で戻ってきたのかは解らなかったが、京塚地区上空に現れ、それから穏やかに真室川方面に降下していき、急降下して黒い爆風と共に上昇して、また、小学校まえを通り、その繰り返しであった。それがどのくらいの時間であったかは定かではない。

爆撃の後自宅の方に急いだが、途中豊里、真室川での変わった事はなかったようですが、秋山の現中学校前でスコップ担いだ大人の男十数人と出会いました。後で飛行場の復旧作業に動員された方々と聞かされました。

そして上野地区まで来たとき第二波の爆撃の飛来を見つけました。機数については、70年も前の事ですので定かではないですが、余り多くはなかったようでした。

第三波の爆撃は、旧安楽城役場前で見ました。機数は確かな事は解らないが、三機編隊でほぼ五群位ではないかと思います。且つその時一機が、大きく右側に方向転換して、野崎館跡の近くにあった監視所の方に機銃掃射があった。わずか数秒間の短い時間であった。

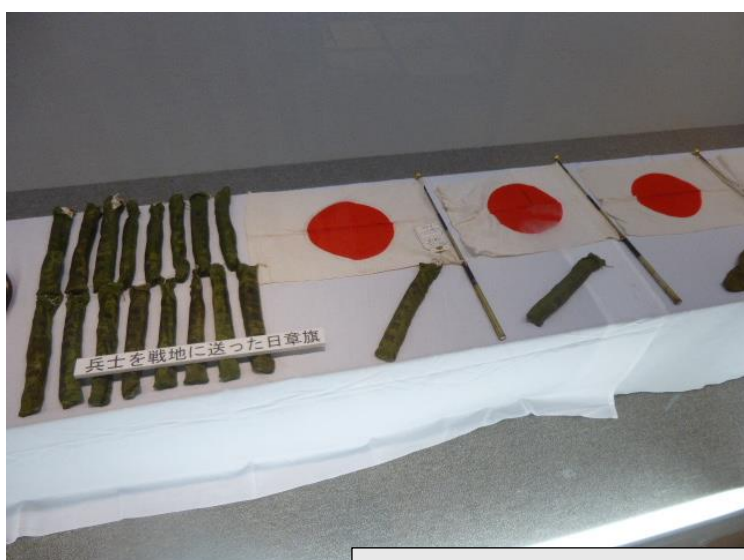
私はその後急いで自宅に帰りましたが、中村からはその後の機影は見えなかったが爆撃は夕方近くまで続いたような気がします。全体で何波の攻撃であったかは解りませんでした。

自宅に泊まった次の日、私は歩いて真室川駅に行き、古口に汽車で向かいましたが鉄道には何も被害が無かったようでした。その後、間もなく終戦になり、真室川飛行場にあった軍用物資の残りを新庄地内の大きな倉庫(近岡の倉庫と聞いた様な気がします)に移す作業に約一週間関わりました。私は直接飛行場の方には行かなかったが、新庄の倉庫で仕分けや整理の仕事をしました。主な品物で一番多かったのは、魚の缶詰、鮭の

缶詰など何百ケースもありびっくりしました。その他、セメント、細長い一分厚さ位の鉄板でした。

余談になりますが、私が今から十数年前新庄の県立病院に入院したとき、一緒の部屋で隣のベッドに居たのが円満寺住職(前新庄市長、山尾氏の父)でした。山尾さんは、当時真室川飛行場に訓練兵として居たそうです。特攻隊員としての訓練だったと聞いております。毎日がアメリカの軍艦に体当たりする訓練ばかりだったようです。残念ながら飛行場爆撃の話を書くことは出来ませんでした。

空襲当時を知る方々の語り書きより



真室川町歴史民俗資料館で所蔵している  
兵隊を戦地へ送る際に使用された日章旗  
や愛國婦人會のタスキなど当時の生活の  
様子がわかる資料



# 終戦 そして 現代へ



慰霊塔・忠魂碑(真室川公園内)

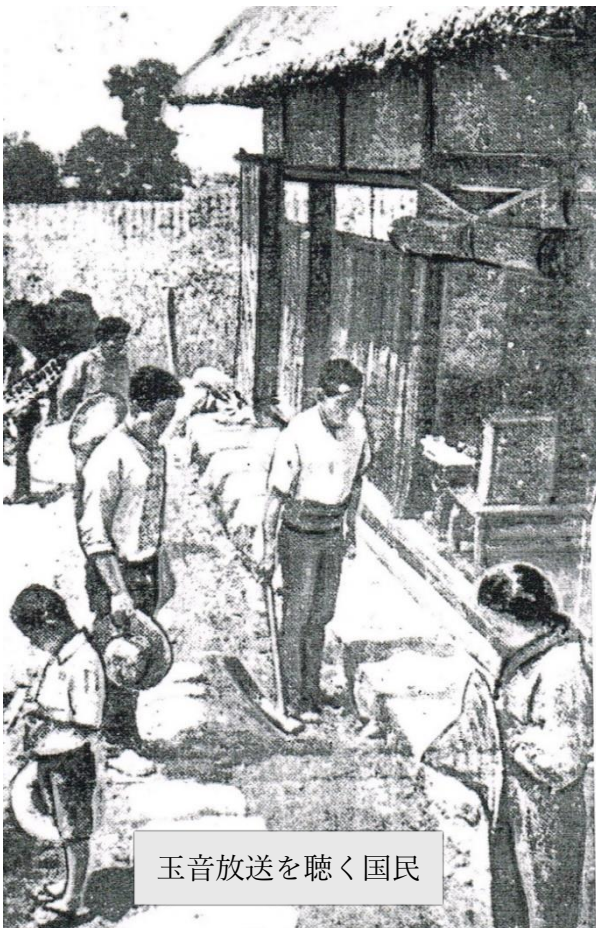
# 終戦(1945年8月15日)

1945年は3月の「東京大空襲」や4月の「アメリカ軍沖縄上陸」などにより、一般の国民が戦闘に巻き込まれるようになり、犠牲が急激に拡大していった。こうした中においても帝国陸海軍は日本全土を戦場とする「本土決戦」の準備を進めるとし、政府と軍は”終戦“を決断できずにいた。莫大な国費を費やし、何よりも国民の命を犠牲にして戦争を行ってきた政府や軍にとって、終戦はこれまでの国策を否定することを意味し、「このままではまずい」と誰もが思いながらも刻一刻と時間は過ぎていった。

政府と軍は「日ソ中立条約」を締結していたソビエト連邦の仲介による終戦に期待をかけていた。しかし、ソビエト連邦はすでに、アメリカ・イギリス両国と秘密裡に協定を結び(「ヤルタ会談(1945年2月)」)日本との戦争に参戦することがすでに決定

していたのである。

日々戦況が悪化していく中、ついに8月6日広島に原爆が投下され、9日には長崎にも原爆が投下された。さらには日本の影響下にあった満州国にソビエト連邦軍が侵攻。これ以上の戦争の継続は国が破滅すると判断し、ついに日本はポツダム宣言(日本に無条件降伏を求める宣言)を受け入れることになった。8月15日正午、「玉音放送」によって国民は突然、終戦を知ることになる。



玉音放送を聴く国民

## 真室川町戦没者追悼式・真室川町遺族会



真室川町では毎年、日本国のため自らの命を捧げた戦傷病者戦没者を偲び、町民全体としてこれらの戦傷病者戦没者 497 柱に追悼の誠を捧げ、永久平和への願いを新たにするために「戦没者追悼式」を実施している。この追悼式は一般の町民も参加することができ、式典の中で献花が行われる。



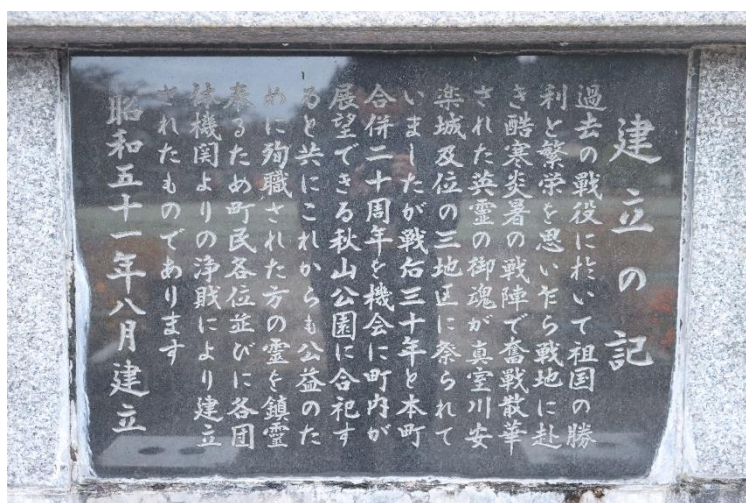
真室川公園内には戦没者遺族会が建立した「慰霊塔」と旧真室川村・旧安楽城村・旧及位村がそれぞれ建立した「忠魂碑」があり、遺族会

の会員によって清掃等の管理が行われている。なお、本年6月16日には遺族会有志と役場協力のもと、慰霊塔前に花壇が造られた。



左から順に旧真室川村・旧及位村・旧安楽城村の忠魂碑

戦後80年の節目の年を迎え、全国各地で犠牲となった戦没者の追悼式が行われているが、今や国民の9割が戦争を知らない時代となり、遺族会本部では戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世へ伝えるため、新聞・テレビ・語り部による広報活動が精力的



に行われている。しかし、国際情勢をみるとロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエルとハマスの戦闘など戦争が多発している。



慰霊塔・慰霊碑の隣には戦没者と殉職者の名が刻まれた芳名碑が建立されている

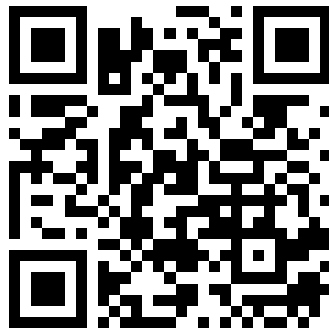
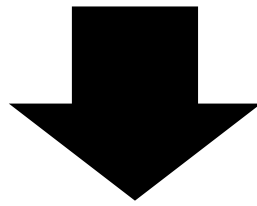
戦争はいつも弱い立場の市民が多く犠牲になる。全ての人々が平和で安心して暮らせる世の中を願うばかりである。

「真室川町遺族会会報No.4号」参照  
(作成：遺族会会長 松澤良治氏)





# 第 14 回真空川スタディツアー アンケート回答フォーム



今後の事業に活かすため、アンケートの回答にご協力ください。

アンケートは上の「QR コード」または「アンケート回答用紙」

からご回答ください



町公式 HP にて「大人の社会科副読本」「過去のツアーレポート」公開中！

こちらの QR コードからご覧いただけます



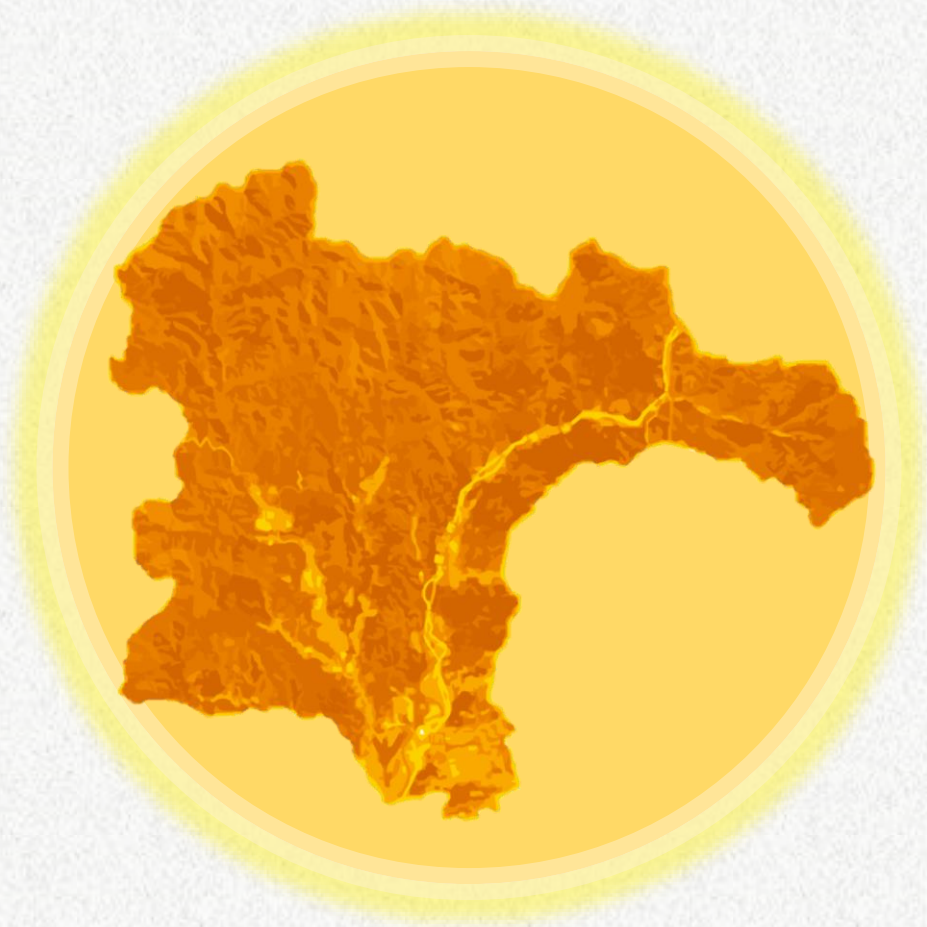
## バス乗車・公用車名簿

1号車	
運転手	(サポート企業組合)
1	庄司 由美
2	福富 美栄子
3	佐藤 方男
4	大友 郁弥
5	高橋 睦美
6	笹原 みな子
7	笹原 芳則
8	松澤 良治
9	近藤 隆男
10	齊藤 誠
11	梁瀬 順子
12	栗田 明
13	栗田 弘美
14	遠田 且子
添乗	梁瀬 平吉
添乗	阿部 駿之介
添乗	矢口 しのぶ

2号車	
運転手	(サポート企業組合)
15	土屋 キミ子
16	伊藤 和子
17	黒坂 高富
18	黒坂 静子
19	高久 道夫
20	白崎 準四郎
21	山田 美喜子
22	中塚 深見
23	岸 啓二
24	倉田 昌拡
25	栗田 哲男
26	柴田 玄理
27	沓澤 基希
28	岸 パトリシア
添乗	高橋 剛文
添乗	杉原 聖弥
添乗	大友 寿美代

ステップワゴン(随行車・緊急車両)	
	門脇 昭 教育長
	大木 聡 副町長
	佐藤 洋子 課長
	長倉 守 指導主幹
運転手	庄司 潤一郎 係長

サクシード(コーヒー係・先行車)	
	佐藤 正美 主幹
	佐藤 哲也 業務員



真室川町教育委員会